

特別ニーズ教育の多様な課題への準備

～教育・保育・福祉の現場で改めて大切にしたいこと～

近年、教育・保育・福祉・医療の現場では、子どもや利用者一人ひとりの特性や背景に寄り添う支援がこれまで以上に求められています。特別ニーズ教育を取り巻く課題は多様化し、現場の専門職だけでなく、地域社会全体で理解を深め、支え合う姿勢が重要になっています。本講座では、障害児者にかかわる教育・保育・福祉・医療の現場の方はもちろん、特別ニーズ教育に関心のある一般市民や学生、障害のあるお子さんを育てる保護者、そして利用者ご本人にもご参加いただき、今まさに話題となっている「多様性」について共に考える時間をつくります。現場で大切にしたい視点や、支援のあり方を改めて見つめ直し、誰もが安心して学び・暮らせる社会に向けて、参加者同士が学び合える場となれば幸いです。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日程と会場

参加費

無料

定員

50名

日時：令和8年3月1日（日）10：00～16：30
会場：東京福祉大学 伊勢崎キャンパス 4号館

※2月25日（水）締切
（当日受付も可）

プログラム

9：15～10：00 受付

- 10：00～11：00 退官記念講演 柳本雄次（東京福祉大学教育学部 教授）
群馬県における特別支援教育の歩みとこれから
（1階 411・412教室）
- 11：10～12：10 講義 上田征三（東京福祉大学保育児童学部 学部長）
多様性から見えてくる‘合理的配慮’
（1階 413・414教室）
- 12：10～13：10 昼食・休憩
展示・発表 田中邦治（県立伊勢崎特別支援学校 教諭）
特別支援教育の教材・教具の展示と体験コーナー
（1階 415教室）
- 13：10～14：10 講義 齋藤厚子（東京福祉大学社会福祉学部 講師）
インクルーシブは誰のためのもの？保育の現場を通して考える
（1階 411・412教室）
- 14：20～15：20 講義 八重樫幸雄（東京福祉大学 非常勤講師）
新井 寿（放デイこどもの未来ラボ 顧問）
多様性をイノベーションへと転換する教育・福祉現場からの提案
（1階 413・414教室）
- 15：30～16：30 パネルディスカッション 参加者一同
みんなが安心して育つために
～多様性と向き合う私たちのこれから～
（1階 411・412教室）

詳しい内容は次ページ参照

柳本雄次 退官記念「群馬県における特別支援教育の歩みとこれから」

これまでの群馬県の特別支援教育の取り組みの奇跡を振り返りながら、「特別ニーズ教育の多様な課題への準備」という大きなテーマに迫ります。特別支援教育の歩みを知ることは、これからの支援をより良くするための“道しるべ”を手に入れることでもあります。子どもたちの未来を支えるために、私たちが今、何を大切にし、どんな準備をしていくべきなのか、一緒に考えていきましょう。

上田征三 「多様性から見えてくる‘合理的配慮’」

多様な子どもたちと向き合う現場で、私たちが改めて問い直すべきキーワードは何か。それが「合理的配慮」です。それは、すべての子どもが安心して学び、育ち、関わるための“土台”です。特別ニーズ教育の実践から見えてきた、違いを力に変えるための視点と具体策につながるヒントを考えていきます。教育・保育・福祉の現場で働くすべての方に届けたい、明日の支援が変わるようになれば幸いです。

田中邦治 「特別支援教育の教材・教具の展示と体験コーナー」

支援のつまずきを解消する教材、集中を引き出す教具、コミュニケーションを広げるツールなど、現場で成果を上げているアイテムを実際に操作できます。「こうすれば良かったんだ」と気づける、体験型の学びの場です。講師にはどんなことでも聞くことができます。

齋藤厚子 「インクルーシブは誰のもの？保育の現場を通して考える」

発達特性のある子、外国にルーツをもつ子、家庭環境に不安を抱える子など、どの子も「ここにいていい」と感じられる保育とは何か。保育者がどんなまなざしを持ち、どんな関わりを積み重ねることで、子どもたちの力が自然と引き出されていくのか。“インクルーシブの理想”ではなく、“現場で実際に機能するインクルーシブ”を一緒に考えていきます。

八重樫幸雄・新井寿 「多様性をイノベーションへと転換する教育や福祉の現場からの提案」

子どもたちの多様性がかつてないほど広がる今、教育・保育・福祉の現場は大きな転換点を迎えています。一人ひとりの違いを“課題”として捉えるのではなく、“可能性を引き出す力”へと変えていく。そのために必要なのは、現場で生きる考え方と、子どもたちの変化を肌で感じられる実践や新しい取り組みを紹介します。

パネルディスカッション 「みんなが安心して育つために」～多様性と向き合う私たちのこれから～

特別ニーズ教育の多様化が進む中、現場には高度な専門性と柔軟な対応力が求められています。本パネルディスカッションでは、合理的配慮の理論、群馬県の制度的歩み、教材・教具の実践知、インクルーシブ保育の現状、多様性をイノベーションへと転換するアプローチなど、多角的な専門知を持つパネラーや参加者からの意見や質問をもとに、これからの支援に必要な視点を深く掘り下げます。それぞれの知見が重なり合うことで、子どもたちを支える新しい連携の可能性が浮かび上がることでしょう。

